

今年度は「家族支援について考える」をテーマに取り組みます。



令和元年度 みょうこう ケアフォーラム 通信



令和元年度 第1回 みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時：令和元年7月25日（木）18時30分から20時00分
- 会 場：新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者：79名（介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等）
- 内 容：①みょうこうケアフォーラムのこれまでの取組紹介
②話題提供「私の考える家族支援」
けいなん総合病院 在宅介護支援センター 武藤いづみ さん
③グループワーク・まとめ

概 要

第1回目今回は『家族支援とはどんな支援か？』を考えました。
話題提供の後、自分が考える『家族支援』を付箋に記入し、メンバーで見せ合い、カテゴリー別に分けていきます。様々な考えがあり、時間内にまとめるのに苦労しましたが、いろいろな意見が交わされ、職種によっていろいろな方向からの家族支援があると理解したり、共感したり、発見したり、多くの学びが得られました。



司会は実行委員会の古川さん

はじめに、実行委員会の長崎さんから、これまでの取り組みと、今年度の実行委員の紹介をしていただきました。

平成28年度より、実行委員会形式で会をすすめております。昨年のフォーラムのなかで家族についてのご意見が多く寄せられたことから、今年度は「家族支援について考える」をテーマとさせていただきました。私たちは、どのような視点で家族をとらえ支援の内容を深めていくべきなのか、皆さんで考えていきたいと思っております。



話題提供

「私の考える家族支援」 けいなん総合病院 在宅介護支援センター 武藤いづみさん

2人暮らしの高齢夫婦と、遠方にいる息子との意見の食い違いなどを調整しながら、本人、同居家族、遠方の家族みなさんにとって、良い方向性を模索し、支援していった経過を、お話いただきました。

- 意見が食い違うときは「目指す頂上は同じ」と考えた。
- 持っている「力」は、地域とのかかわりや、築いてきた関係性を知る事。
- 迷った時の支援の方向性（道しるべ）は、歩んできた道のりにふれること。



GW

各グループごとに「家族支援とはどんな支援か」を考え、発表しました。

日頃の活動の中で「家族支援ってこんな事かな・・・」と思うことを、グループ内で意見交換しました。まずは、各々付箋に記入してから、グループ内で発表し、同じ意見をまとめていきました。



「そういうのも家族支援だよね・・・」
「これとこれはレベルが違うから、一緒にできないよ」
「職種によって考え方が違うね」などなど、さまざまな意見があり、まとめが大変だったグループもあれば、早々に意見がまとまったグループもありましたが、どのグループも家族支援について深く考え、熱心に意見交換をしていました。

グループ発表は、まとめた用紙に沿って、皆さんの思いをお話していただきました。

- ・本人家族の思いを聞くこと、伝えることが大切。
- ・同居（家族の時間確保、労う、家族の気持ちの代弁）別居で違う支援がある。
- ・話を聞く、そして支援。
- ・レスパイト、環境づくり、介護者のことを考える、本人主体、近所とのつながりなど。
- ・10家族いれば10通りの支援がある。
- ・負担の軽減、軽減するための方法や手段の提案、相談・傾聴、家族との信頼関係、家族も幸せになる支援。



まとめ

ご本人の物語りの理解だけでなく、介護者の物語りの理解の視点が必要。

家族支援とA.C.P どのような視点での家族支援があるのか？

■介護自体の問題とご本人の自己実現の阻害

- ・personal strain:介護を必要とする状況や事態に対する、否定的な感情の程度。
- ・role strain:介護によって、介護者の社会生活に支障を来している程度。

■本人の自己実現

- ・やりたいこと、してもらいたいこと、こうあってほしいこと、してほしくないこと
それを理解しサポートしていく。

- ・関わることは、相手にも影響を与える可能性がある事を理解する。

そのうえで・・・自らの立場の確認、情報提供ではなく対話であることの確認、一緒に物語を紡いでいく感覚

■”決める”と”決まる”は違う

- ・主体的に自ら決めることは難しい。
- ・A. C. Pはお互いに影響し合いながら、決まっていくことの方が、しっくりくることが多い気がする。



まとめは
実行委員会の
揚石先生



今年度もみょうこうケアフォーラムは、年3回を予定しています。第2回の詳細は、後日改めてご案内します。